

新晃工業(社長川末永聡氏)は11月8日、2024年3月期第2四半期連結業績(4月1日〜9月30日)を発表した。それによると売上高は前年同期比(以下同じ)24・5%増の222億9千万円、営業利益73・2%増の25億2千700万円、経常利益52・6%増の27億8千900万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は62・9%増の20億7千万円となった。通期連結業績予想では売上高が前期比11・6%増の500億円、営業利益18・4%増の71億円、経常利益13・4%増の74億2千万円、親会社株主に帰属する当期純利益17・8%増の53億2千万円に上方修正した。

新晃工業 2024年3月期第2四半期連結 売上、利益とも大幅増

セグメント別で日本国内では産業空調を中心とした受注獲得と物量の平準化、空調工事の拡大に注力し、売上高は16・5%増の187億200万円でセグメント利益(営業利益)は24億8千100万円となった。利益面では原材料価格高騰の影響を受けたが、価格改定や物量増によりセグメント利益(営業利益)は66・5%増の24億8千100万円となった。アジアは、中国市場が不動産市場の停滞に伴い、景気持ち直しの動きに弱さが認められる中で受注拡大に努めたことなどもあり、売上高は92・1%増の35億9千700万円、利益面で業績予想修正の中で「連結営業利益が当初計画より1年前倒しで達成間近」と発表された。11月8日に公表した通期連結業績予想修正の中で「連結営業利益が当初計画より1年前倒しで達成間近」と発表された。11月8日に公表した通期連結業績予想修正の中で「連結営業利益が当初計画より1年前倒しで達成間近」と発表された。

新中計策定 27年3月期 連結売上560億設定

長期ビジョン「空気で未来を拓く」のコンセプトのもと、新中計を「加速ステージ」に位置付け、連結売上高560億円、連結営業利益86億円、ROE(自己資本利益率)10%以上、配当性向50%以上の目標を設定した。目標達成のための投資額を3年間で135億円に拡大し、DC向け・ヒートポンプAHU開発・販売体制強化・M&Aなど成長領域への投資や蓄エネ・水素冷却など新規市場開拓に48億円、開発体制の追求・生産体制強化など既存事業・基盤強化に87億円を振り向ける計画。

新中計策定 27年3月期 連結売上560億設定

新中計策定 27年3月期 連結売上560億設定